

## 二次救急医療機関での救急患者受入実態調査結果（概要）

調査期間：平成 23 年 11 月（1 ヶ月）  
 調査先：県内の救急告示医療機関  
 （60 機関）

**救急受入患者総数 …… 14,415 人**  
 （比較対象：平成 20 年 11 月患者数 16,362 人）

### 1. 患者総数、軽症患者数

#### 全医療圏で患者数が減少

患者総数が 1,947 人減少（ 11.9% ）し、内訳は軽症患者が 1,789 人（ 13.6% ）、中等症以上の患者が 148 人（ 4.6% ）となっている。

また、患者総数における軽症患者の割合も 80.2% から 78.7% へ減少した。

医療圏別では、全医療圏において患者総数、軽症患者数及びその割合とも減少している。

軽症患者数では、宇摩圏域が 452 人減少（ 37.4% ）しており、次いで今治圏域（ 17.8% ）、新居浜・西条圏域（ 12.2% ）となっている。

### 2. 年齢階層別受診動向

#### ほとんどの年齢階層で患者数が減少

「40～49 歳」、「70 歳以上」では患者数が微増しているが、それ以外のほとんどの年齢階層では減少している。

減少率では「0～4 歳」（ 31.4% ）、「5～9 歳」（ 22.9% ）、「50～59 歳」（ 22.4% ）の順となっているほか、コンビニ受診が懸念される「20～29 歳」（ 16% ）、「30～39 歳」（ 17.8% ）の勤労者層においても患者数が減少している。

軽症患者についても同様の傾向。

# 8000 の 1 日平均利用件数

・ H20.11：4.5 件      H23.11：13.0 件

### 3. 来院形態別受診動向

#### 自力で来院(walk-in)の患者が減少

現場から救急搬送された患者は増加しているが、自家用車や徒歩など、自力で来院する walk-in の患者は 1,660 人減少（ 13.7% ）しており、内訳は軽症患者が 1,591 人（ 14.6% ）、中等症以上の患者が 64 人（ 5.5% ）となっている。

